

校 園 名：香川大学教育学部附属特別支援学校

所在地：〒762-0024 香川県坂出市府中町綾坂889番地
電話番号：0877-48-2694

記載日：平成28年5月20日 記載者：合田 卓生 記載者役職：副校長

校風、おおまかな特色について

校 訓

「 自 立 」

各部の具体目標

- 小学部 「日常生活の自立」
- 中学部 「集団生活の自立」
- 高等部 「社会生活の自立」



教育目標

児童生徒個々の能力や特性に応じた教育を行い、社会生活や家庭生活に必要な体力・知識・技能・態度を育て、将来健康な一個人として自立できる人間の育成に努める。

教育方針

- 健康な身体とたくましい心を育てる
- 生活を豊かにする知恵を身に付ける
- よろこびを素直に表現できる情報を養う

児童生徒像

- 明るく すなおな子
- みんなと 仲よくできる子
- すすんで はたらく子

教師像

- 児童生徒の思いや願いに寄り添う教師
- 児童生徒に学ぶ教師
- 児童生徒の個性を生かす教師

本校は、「人間性豊かな児童生徒の育成と個々の社会的自立」をめざして、昭和40年4月に香川大学教育学部附属坂出小学校に特殊学級「南組」が創設されて以来、昭和50年4月に香川大学教育学部附属養護学校としてとして創立された。また、本校が昭和53年9月に現在の地に新築移転し、授業を開始してから38年目となる。「学校教育法等の一部を改正する法律」が公布され、平成19年4月1日より校名を「香川大学教育学部附属特別支援学校」と改め、現在に至っている。

平成28年度は、61名（小学部17名、中学部17名、高等部27名）の児童生徒が学んでいる。小学部は、2学年で1学級を構成し、全校の学級数は9である。在籍する児童生徒は、中讃圏域の市町と高松市から、スクールバス、保護者の自家用車、徒歩、自転車、JRを手段として通学している。

坂出市内にある附属幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校の4校園が連携し、附属坂出学園としての結び付きが強く、毎年9月には、4校園合同の運動会を行っている。また、本校の小学部と附属坂出小学校の4年生は、一緒に活動する交流学習に取り組み、中学部と附属坂出中学校の希望者は、合同運動会で一緒に競技に参加している。



春



秋



夏



冬

香川の
緑のカーテン
コンテスト
優秀賞受賞

卒業生の活躍状況について

- ①定期的に行う追跡調査は行っていないが、就業・生活支援センターやハローワーク、相談支援事業所などと連携しながら卒業生への「追指導（アフターケア）」を行っている。
- ②卒業生の状況については、学校でほぼ把握できている。
- ③高等部卒業生（327名）の卒業時点での進路動向（S53年度～H27年度）
就職：170名 福祉施設等：150名 進学その他：7名

本校勤務経験者が公立学校・教育委員会などへ戻った後の活躍状況について

①人事について

すべて県教育委員会との交流人事である。約半数は義務教育課の管轄から、あと半数は県立特別支援学校からの交流となっている。

「本校に交流人事で配属となり、その後転出したときに新しい学びの場で、本校での教育実践を通じて身に付けたものを、発揮する」このことは、毎年数名ずつが香川県下のどこかの「学びの場」に転出するため、たいへん地味ではあるが着実に行える本校の「地域貢献」であると考えている。

②活躍状況

転出後は、本校での勤務で培ったことを生かし、教育委員会をはじめ、それぞれの学校や地域において、特別支援教育を推進するリーダーとしての役割を担っている。

③附属坂出学園松風会

附属坂出学園では、学園で勤務した教員と現在勤務している教員で構成される「附属坂出学園松風会」を結成している。2年に一度総会を開き、その都度、現在の状況を更新した名簿を作成し、全会員に配布している。活躍状況は、名簿で把握することができる。会員の所属等については、学校園、大学、教育委員会、退職OBと総会や各校園の研究発表会の折りには、本校だけでなく他校園のOBもたくさん参加してくださり、ご意見やご感想をいただいている。いただいたご意見やご感想は、本校の研究や学校運営の支えとなっている。また、松風会の郡市町ごとの支部も結成されており、交流も盛んである。

魅力ある、特色ある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取組などについて

①研究発表会の開催

本校の教育実践を様々な角度から分析、評価、改善し、研究のまとめとして隔年で「研究発表会」を開催し、本校から全国に向けて研究の成果を発信している。平成27年度の「研究発表会」で18回を迎えた。



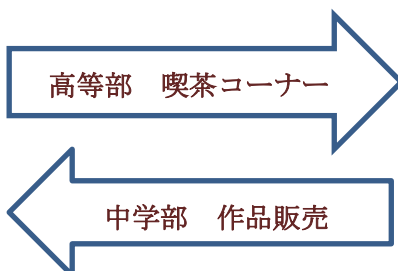
第18回教育研究発表会では、「分かって動いて学び合う授業づくり」を研究主題とし、児童生徒の「授業」への参加を高める三つの視点（目的意識、遂行・活用、協同）について授業公開や授業者と語る会、講演を通して発信した。

研究発表会には、県内外より毎回300名を超える教員や関係者にご参会いただいている。

②交流活動を通じた理解啓発（相互理解）

附属坂出小学校と地域の小学校（府中小学校）との交流学習，附属坂出中学校（合同運動会），地域の皆様との交流活動を行い，相互理解に取り組んでいる。

毎年 11 月に行われる「ふれあい祭り」では，交流発表会を行ったり，地域の各種団体（老人クラブ，社会福祉協議会，ボランティア協会等）の皆様と交流をしたりしている。また，PTA や卒業生親の会，卒業生，OB 職員も多数参加し，親睦を深めつつお互いを知るよい機会となっている。



③地域貢献

本校も他の特別支援学校と同様「特別支援教育のセンター的役割」を果たしている。

- 連携訪問：特別支援学級の学習内容や支援方法等についての相談
- 巡回相談：通常学級で学ぶ子どもの学習内容や支援方法等についての相談
- 研修会等の講師：学校や各種研究会等の団体が行う研修会での講師
- 指導助言：現職教育や各種研究会等の団体が行う研修会での指導助言
- 学校視察，見学，授業参観，教育相談
- 特別支援教育相談事業「やまもも教室」：県内の幼児児童の活動と保護者担任との相談，講演会等
- 坂出市・丸亀市の幼児児童生徒の就学指導
- 香川大学教育学研究科特別支援教室「すばる」との連携，相談指導員の派遣

地域における本校の存在について

地域貢献として上述したが，地域の特別支援教育推進校として，指導助言や相談活動に取り組み，先進的な実践について情報提供を行う存在であると思われる。

また，地域だけでなく他県からの学校視察や研究に関する問い合わせをいただくことから，全国の特別支援教育を推進していけるよう充実した実践に取り組むことを使命とした学校でもある。

附属学校の存在意義，本校の存在意義について

附属学校は，それぞれの地域における教育のリーダーである。研究面も含めて，本県だけでなく全国を視野に入れて，実践を行い，そこで得た成果を附属校から全国に提案，発信する存在であり続けたい。